

風に天澄みて杉揺れてをる
苔白き墓に射す日の冴え凍り

十二月十四日（晴れて寒い 氷張る）

朝 二水の林檎届く。午後 立子來。嬉しい。立話で別れる。南京の完全占領で巷の歡聲丘上に達する。遂に丘上に提灯行列がやつて來る。夜立子のビスケット美味。

月冴えて提灯行列暖かし

夜中夢中句作三昧

南無落葉とて手に受けて子守かな
南無落葉かの乞食は大師さま
霜柱立子歸るを留めもせず
紫の立子歸れば笹子鳴く

十二月十五日（晴れて暖かい 日光浴 風猛烈）

夜 木犀 まはぎ 摩耶 蘭の花 玉塚 あをきり雜詠一氣選了。月冴えていよく風猛る。

* 昭和十二年の日記。